

特集 □ 瑩山禪師顯彰碑建立

清水寺に瑩山禪師顯彰碑建立

—— 黒田倫子夫人により発願 ——

京都東山の名利、音羽山清水寺（森清範貫主）に於て、大本山總持寺貫首板橋興宗禪師御親修のもと「曹洞宗太祖瑩山禪師と清水の観音さまとの深いえにしを報恩顯彰する碑」の除幕式が営まれた。これは神奈川県横浜市・善光寺（黒田武志住職）の寺族、黒田倫子夫人により発願されたもの。

瑩山禪師は祖母明智優婆夷と生母懷觀大姉に

より深い観音信仰の中で生まれ、瑩山禪師自身も能登に永光寺を開き、十一面観音を奉安する円通院を建立するなど、三代に亘り清水の観音様と深い仏縁であった事が知られている。その仏縁を顯彰し恩徳を讃える為に今回、清水寺境内に建立した。

顯彰碑の規模は、台座を含め縦二・五メートル、横三メートル。碑文は東隆眞駒沢女子大学学長により撰

文された。

午前十一時からの式典では、板橋禪師と森貫主を始め、宗門からは村上俊鳳京都府宗務所長らが参列。また清水寺からは大西真興執事長、森法務部長らを始め、関係者ら約五十人が出席した。顕彰碑は板橋禪師、森貫主、倫子夫人により除幕され、ここに両宗派の縁が結ばれた。

倫子夫人による啓白文が奉読された後、板橋禪師は「清水寺とわが宗門とが深い御縁で結ばれ、ますます深められていく事は喜ばしい限りである。ここに至るまでの関係者に対して、感謝の念で一杯である。今後とも清水寺と我が宗門の発展を願っている」と語り感謝の意を表した。

また森貫主は「記念碑建立により更に、当山との御縁が深まっていく事を願っている」と両宗派の益々の繁栄を祈念した。

これを受け倫子夫人は「両猊下御親修のもと

に、このような立派な除幕式を行うことが出来て身に余りすぎる光栄を感じています」と謝辞を述べていた。

黒田住職は「瑩山禪師はもとより道元禪師も親しく清水の観音様にお参りになったと思うが、七々八百年前の事と思うと感無量である。また瑩山禪師は女性を大切になさった。二十一世紀は女性の時代であるとも言え、今後大事にしていきたい。清水寺に於ては早朝から夕方まで開けておられ、日本中からお参りに来られる。そのような場所に尊い御縁を結ばせて貰い、感謝すると共に清水寺の観音信仰が世界へ広がると同時に曹洞宗もその徳をあやかれば。お釈迦様に感謝して歴代祖師方に厚く御礼する」と集まった関係者に感謝を表した。